6. その他の破砕帯について

D-1 破砕帯以外の破砕帯のうち評価書において「原子炉建屋直下を通り，浦底断層付近まで連続するもの」として挙げている下記の破砕帯について，これまでに得られた結果を示す。

各破砕帯について連続性及び活動性を把握するため，露頭調査，剥取調査，ピット調査，大深度坑調査，年代分析（テフラ分析，花粉分析等）等を実施している。【資料 6－1】

各破砕帯の調査結果は下記に示すとおりであるが，上載地層との関係等に関するデータを整理するとともに，引き続き調査方法を含めて検討していく。

○　D-5 破砕帯

D-5 破砕帯の連続性及び活動性を把握するため，大深度坑調査，年代分析（テフラ分析，花粉分析等）等を実施した。

現時点では，掘削のための地盤改良範囲内に D-5 破砕帯が確認されていない。

○　D-6 破砕帯

D-6 破砕帯の連続性及び活動性を把握するため，大深度坑調査，年代分析（テフラ分析，花粉分析等）等を実施した。

調査の結果，D-6 破砕帯は，少なくとも K-Tz（約 9.5 万年前）及び美浜テフラ（約 12.7 万年前）を含む地層に変位・変形を与えていないことを確認した。

○　D-14 破砕帯

D-14 破砕帯の連続性及び活動性を把握するため，既往露頭調査，ピット調査，年代分析（テフラ分析，花粉分析等）等を実施した。

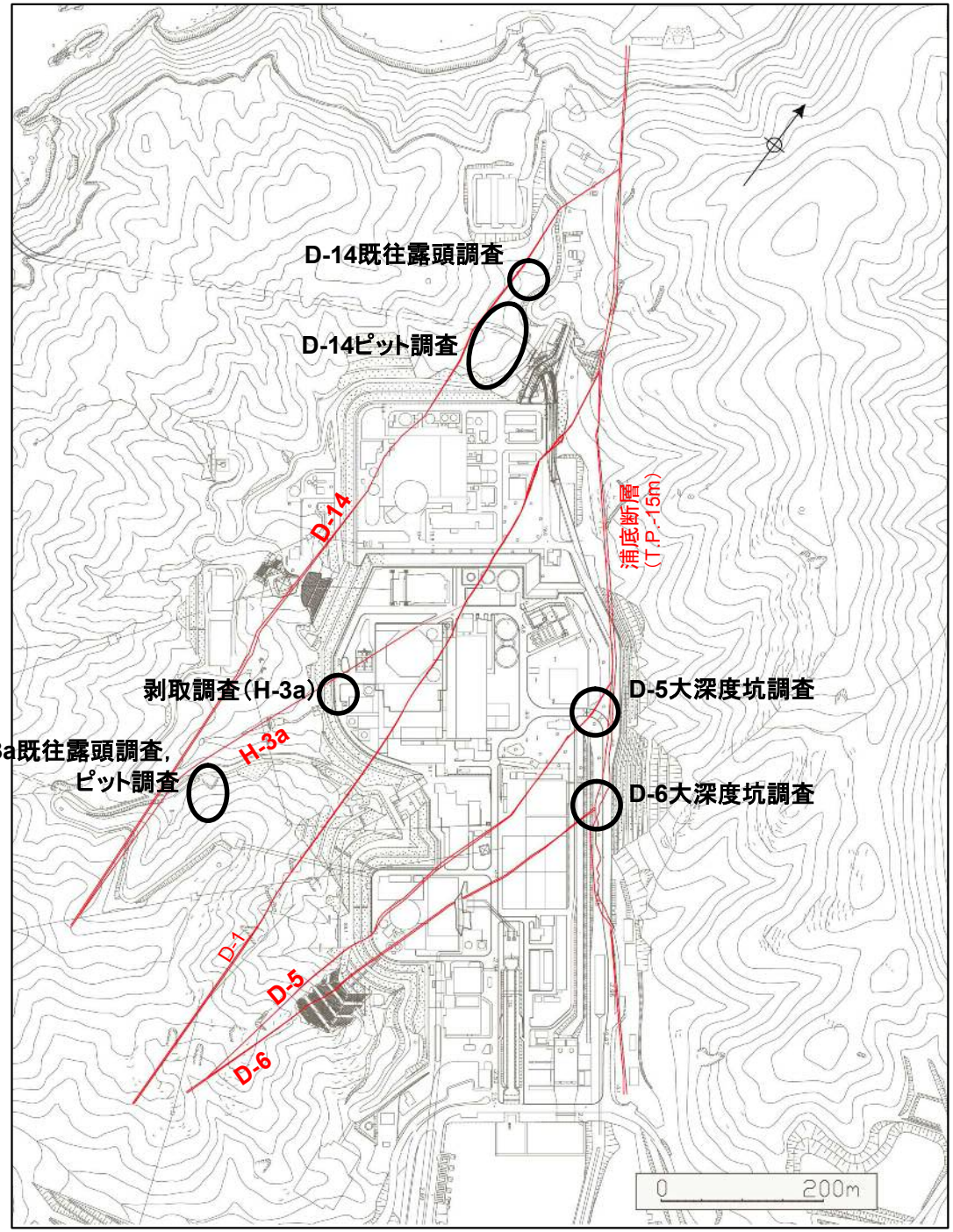
調査の結果，D-14 破砕帯は，少なくとも AT（約 2.9～2.6 万年前）を含む地層に変位・変形を与えていないことを確認した。

○　H-3a 破砕帯

H-3a 破砕帯の連続性及び活動性を把握するため，既往露頭調査，ピット調査，剥取調査，年代分析（テフラ分析，花粉分析等）等を実施した。

調査の結果，H-3a 破砕帯は，少なくとも K-Tz（約 9.5 万年前）を含む地層に変位・変形を与えていないことを確認した。

その他の破砕帯　主な調査の位置図



＊破砕帯はT.P.-15mスライス